

第10回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のご報告

6月16日（水）に第10回万葉集を楽しむ会@花奈雅和が開かれました。リアルが14名、リモートが3名で合計17名の参加となりました。



今回のテーマは「ツツジ（躑躅、映山紅）」。ツツジはツツジ属の総称で、サツキ、シャクナゲも含まれます。植物なのに「躑躅（足踏みの意）」という足偏の漢字は「見る人が足を止めるほどに美しい」（中国）からだそうです。



オムラサキ（先生のご自宅のツツジ）



上方の花びらにだけある斑点は蜜標といい、昆虫に蜜のありかを教えて花粉を運んでもらうためのものです



レンゲツツジ（蜜に毒がある）



ヤマツツジ（日本の野生ツツジの代表種）



サツキ（ツツジ）



アザレア（逆輸入された西洋ツツジ）

次に見分けにくいツツジとサツキの違いを教えてくださいました。万葉集にはツツジの歌が9首ありますが、そこから2首をご紹介します。

（原文）水傳 磯乃浦廻乃 石上乍自 木丘開道乎 又将見鴨

（訓読）水伝ふ 磯の浦みの 岩つつじ もく咲く道を またも見むかも

（意味）水が流れている岩に咲いているつつじが見えるこの道をまた見ることができるのだろうか

2/0185 日並皇子宮舎人（ひなみしのみこのみやのとねり）

草壁皇子（日並皇子）が亡くなった時に、皇子に仕えていた舎人達が作った歌が23首あります。この歌は主人を失った悲しみ、解放された気持ち、仕事を失う不安などいろいろに解釈できるというのも興味深いです。巻第二は「相聞(恋の歌)」と「挽歌」（亡くなった人への追悼歌）で構成され、挽歌は万葉集だけの言葉で、古今集では「哀傷歌」になるそうです。草壁皇子と優秀で人望のあった大津皇子のお話になり、「暁露（あかときつゆ）」（恋忘れ貝～万葉ことば巡りP10）を確認しました。柿本人麻呂の詠った草壁皇子への有名な挽歌があるが、先生は巻第二の最後を飾る笠金村（かさのかなむら）の詠んだ志貴皇子に対する挽歌がすばらしく、一番好きだとのことでした。

（原文）姫部思 咲野尔生 白管自 不知事以 所言之吾背

（訓読）をみなえし 佐紀野に生ふる 白つつじ 知らぬこともち 言はえし我が背

（意味）（佐紀野原の白つつじのように）知らないことで人に噂をたてられてしまったあなた

10/1905 作者未詳

「をみなえし」は枕詞。白^{しろ}つつじと知ら^しの音合わせにリズムがあります。奈良の佐紀（さき）と佐保（さほ）の話もうかがいました。いつものように唱和して万葉の調べを楽しみました。

今回の先生の着物はレンゲツツジを思わせる色無地、帯には白つつじがあしらわれ、マスクもピンクのつつじ柄、帯留は羊が赤いつつじを食べてふらっとしているという凝った装いでした。



ツツジには「羊躑躅」の漢字もあり、羊が毒のあるツツジを食べて足がマヒして立ち止まってしまうからだそうです。

最後に参加者の皆さんの感想の一部を紹介させていただきます。

●ツツジとサツキの違いがわかったので来年自慢しようと思います●ドウダンツツジがツツジの仲間とはびっくりしました●子供時代よくツツジの蜜を吸っていたので毒のあるツツジがあると知ってびっくりしました。今生きているのでよかったです●ツツジの種類がよくわかってよかったです。二か月先の万葉集の会が楽しみです●火葬や仏教に結びついていなかった土葬の事などが伺えて面白かったです●異次元の万葉人を身近に感じました。挽歌のことがよく理解できました●歌の意味だけ知ると、その背景（習慣や伝統）を知るのとでは受け取り方がずいぶん違うものだと思います。

第11回万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ

開催日時： 令和3年8月18日（水） 10:00～12:00

場所： プララ杉田 505号室

参加費： 1500円

◎参加申し込みは杉本啓子にお願い致します。 keni9ri@yahoo.ne.jp

令和3年6月29日

文責：三浦美智子・高木紀世子

~~~~~  
万葉集を楽しむ会@花奈雅和

講師： 吾意在野游・高木紀世子

世話役： 水野裕子（代表世話役）、杉本啓子（名簿管理）、三浦美智子（書記）、多比良恵子（会計）  
~~~~~

追加情報

8月18日にご都合の悪い方は直接講師（cc杉本さん）にご連絡ください。会費は同じ1500円です。paksara3t@7.dion.ne.jp